

菊上りのしいも

あなはかたは 程よい不多い

ほんうりやをたにわい、 日や長ぼつこの ねむ

くするもが じめつと身ほしするもの

せくまと着るに ころしを着るに ちよれ

少しづつやぶる 肌を感じると 感じよて

ちよるものだ

今 今迄の ~~あつた~~ かいせけんを 越すとい

る 少し糸子を去年穿つた 四章かかせし物

を今年してつた その四章かかせしもの 何れの

て 昨秋すまきもたのよき花つた 二枚ゆいの

と思つていい 今年の六月に穿つて今迄の

五章かかせかたはゆをぬか さいてあの

うをいだろつと思つてつた

去年の夏、 とも子りかつた 今年の夏は

どうだろつと思つた時、 雨を正後甲しついで

姉のこはかきかきつた そうだかかせしものと

こつたえうつと思ひかたはかかせしはら 二枚

穿うと少しまき 穿うていさ 4枚とす 二枚

穿うことわした ちよる ちよる ちよる

半信の「五」が「世」の「ハ」イアト「獨」が「一」

今それをおかす

何という気持のよさだ

「四」が「世」と「五」が「世」はちたろ

しほらくじつと目をとじていっ 押かろりて

いっようだ 押の表面でなく芯が気持いい

そんな唇は思ふと思ふと「世」が いんもの

はいいものだ 脱力して自然に目をとじてなく

存る 命の命いい目と思ふとく

「一」が「世」は「世」が「世」をいんる

去年から一年保甲していねが表面からたんが

「世」いん 爪とつかわる 五「世」を

いん 爪かっかわる余地はるしつかり

しつかり

この一年はつかり

それぞれ満足はいいものにしよう